

K. 筋組織系腫瘍 muscular tissue tumors

平滑筋腫 leiomyoma

皮膚では立毛筋，血管平滑筋，陰部の平滑筋（肉様膜）から腫瘍が生じ，それぞれを皮膚平滑筋腫（cutaneous leiomyoma），血管平滑筋腫（angioleiomyoma），外陰部平滑筋腫（genital leiomyoma）と呼ぶ．直径1 cm 程度までの腫瘍が単発（ときに多発）し，疼痛，圧痛をきたすことが多い（**図 21.73**）．なかでも血管平滑筋腫は成人女性の下肢に好発し，寒冷刺激などにより強い発作性疼痛をきたす．陰嚢に生じたものは無痛性である．本症の悪性型は平滑筋肉腫（leiomyosarcoma）である．



図 21.73 平滑筋腫 (leiomyoma)

L. 骨組織系腫瘍 osteosis tumors

1. 皮膚骨腫 osteoma cutis

頭部や四肢皮膚に生じる異所性の骨形成である．胎生期の骨芽細胞の迷入などによる原発性と，尋常性癩瘡などの炎症などが先行し，二次性に骨化をきたす続発性に区別される．非常に硬い丘疹，結節ないし局面が単発あるいは多発する．下床の骨組織と癒着していることがある．多発例では McCune-Albright 症候群（20 章 p.389 MEMO 参照）の可能性も考慮する．

2. 爪下外骨腫 subungual exostosis

指趾骨末節由来の骨組織増生が皮膚を押し上げて，爪甲下に出現したもの（**図 21.74a**）．10～20 歳代に多く，第一趾に好発する．疼痛が強く，爪甲の変形も伴う．グロムス腫瘍などと鑑別が必要であり，X 線撮影が有用である（**図 21.74b**）．治療は外科的切除．



図 21.74 爪下外骨腫 (subungual exostosis)
a : 臨床像. b : X 線写真.

M. 造血系 hematopoietic tumors

1. 皮膚リンパ球腫 lymphocytoma cutis

同義語：皮膚良性リンパ節腫症（lymphadenosis benigna cutis），偽リンパ腫（pseudolymphoma）

虫刺症，外傷，日光曝露，ライム病などを契機に生じること